

hasuhanaan\_nalu ...



#星田妙見宮 #パワースポット

nao.taku39 ...



#初日の出 #2021元日

fu.miku ...



#クリスマスランチ #リースサラダ

maekaworld911 ...



#赤青黄のコントラスト

mugia08 ...



#私市植物園 #自然と遊ぶ

64mutsu ...



#水を抜かれたあの池のほとり

# 星ノ町 レジェンド

龜山上皇は鎌倉時代中の正元元年(1259年)～文永11年(1274年)に第90代の天皇として在位し、その後、息子である後宇多天皇に位を譲った後も上皇として院政をしていました。当時、大陸で絶大な勢力を誇った元が日本に攻めてきた「元寇」の際、2度に渡り元軍に甚大な被害を与えた「神風」を、祈願して吹かせたとされている人物です。

そんな有名な上皇と交野とのエピソードが、私市の獅子窟寺に伝わっています。あるとき、病にかかった上皇は、靈驗あらたかな獅子窟寺のを知り、回復の祈願に行きました。その後、病が治ったことを感謝した上皇は、獅子窟寺へ訪れる間に滞在した場所を「観音寺」とし、寺の領地も寄進しました。

このお寺は後に「千手寺」と呼ばれ、現在は廃寺となりましたが、本尊の「如意輪観音座像」と「聖観音立像」は市の文化財に指定され、今も地元のみなさんにより大切に保管されています。また、現在も廃千手寺周辺(私市3丁目14番付近)の地名は「院田」といいます。「院」とは上皇のことを表す言葉であり、これも上皇から寄進された領地にあった田んぼから来ているものと



私市の人に愛された上皇  
かめやま  
龜山上皇  
1249年—1305年

考えられています。  
上皇が亡くなった後、縁の深い獅子窟寺は、上皇と上皇后を供養するため石塔を建てました。この塔は、江戸時代には「龜山御陵」と呼ばれ、現在は「王の墓」と呼ばれています。獅子窟寺の北西、仁王門跡の石組みを左に曲がり、山道を100ほど下った場所に、現在も重厚なたたずまいを見せています。  
元寇など、激動の時代を生きた龜山上皇。交野との縁を大切にしてくれたことが伺え、交野の人々もその上皇の足跡を後世に伝え、大切にできてきたことが分かります。



廃千手寺如意輪観音坐像



王の墓